



吹田市長  
阪口善雄 殿

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

国鉄清算事業西日本支社

支社長 増田敏



吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業に係る工事の遅延について

平素より、吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本事業につきましては、平成18年2月の着手合意協定書締結以降、工事の準備を進め、貴市をはじめ地元の方々などのご理解をいただきながら、平成23年春の貨物駅開業に併せた岸辺駅の橋上化・南北自由通路など、まちびらきを目指し鋭意工事を進めてきたところです。

しかしながら、今般、これまでの工事の進捗状況などを踏まえ、今後の見通しについて検証した結果、現時点では吹田貨物駅の開業は平成25年春になる見込みとなり、吹田操車場跡地のまちづくり事業に関連する岸辺駅の橋上化（大阪方を除く）・南北自由通路は平成24年春の使用開始となる見込みとなりました。市民の方々に対しまして工事期間の延伸に伴うご迷惑、並びにまちづくりが遅れることなどにより、貴市をはじめとする関係者の皆様方に何かとご迷惑をおかけすることについて誠に遺憾に存じます。

工程遅延の主な要因としては、当初予定していた埋蔵文化財包蔵地の範囲が、工事の進捗に伴って拡大・追加して指定され、調査に時間を要していることなどが挙げられます。

このため、貴市が進められる吹田操車場跡地まちびらきへの影響を最小限とするべく、線路切換え工事を追加して実施する計画としており、E街区（医療健康創生ゾーン）の駅前広場は平成23年春の供用開始となるよう最大限の努力をしているところです。他のまちづくり用地内の土地区画整理事業に係る工事着手時期等については、F街区（医療健康創生ゾーン）は平成23年度に工事の全面的な着手が可能となるほか、A（緑のふれあい交流創生ゾーンⅠ）、B（同Ⅱ）、D（教育文化創生ゾーン）の各街区では上り貨物本線沿いの一部（貨物駅側）を除き、道路側（民間用地側）からの工事が概ね平成23年度から着手可能となる見込みです。さらに全面的に工事の着手が可能となるのは、埋蔵文化財調査の有無によるものの概ね平成24年度末となると考えています。

鉄道・運輸機構としましては、工程の短縮に向けて引き続き努力をしていくこととし、貴市のまちづくり事業と調整していく所存ですので、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

なお、ご購入いただいた機構土地の引渡し日を延長する場合の扱いについては、土地売買契約書等に基づき適切に対応する所存です。

# 吹田貨物ターミナル駅(仮称)整備工程(案)

平成22年2月

(鉄道運輸機構提出資料から作成)

